

京成本線荒川橋梁 架替事業推進の 要望書

江東五区

葛飾区 墨田区 江東区
足立区 江戸川区

京成本線荒川橋梁架替事業推進の要望書

貴台におかれましては、日頃より荒川水系の総合的な治水・利水対策にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。

荒川は、政治・経済の中核機能が集中する首都圏を貫流する重要な河川であり、ひとたび氾濫すれば、我が国の社会経済活動に対しても計り知れない影響を与えます。

東京都東部低地帯の江東五区（墨田区、江東区、足立区、葛飾区、江戸川区）は荒川沿川に位置し、大規模水害により浸水する可能性のある地域に約 250 万人が住んでいます。

令和元年東日本台風では、荒川の熊谷水位観測所、治水橋水位観測所などにおいて観測史上最高を上回る水位を記録し、上流部の荒川水系越辺川、都幾川の堤防決壊、越水による外水氾濫が発生しました。下流部においても氾濫危険水位に迫る状況であり、幸いにも洪水はおきませんでした。多くの区民が強い危機感から避難を実施しました。

近年は、気候変動による台風の激化・巨大化、豪雨の頻発化・激甚化が進み、懸念される水害リスクがこれまで以上に増大し、顕在化しています。

このような水害を未然に防止することが治水の要諦であり、河川流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる「流域治水」を着実に進めることが重要であると考えます。

これまで江東五区で、広域避難による防災行動など、ソフト対策による減災の取り組みを進めてきましたが、令和元年東日本台風により、人命を守り、社会経済的被害を回避するには、国政として治水事業を推進していただくことが極めて重要と改めて実感させられました。

特に京成本線荒川橋梁部は、周辺の堤防より桁下高が 3 m 以上低く、荒川の重要水防箇所のひとつとされています。抜本的な対策となる京成本線荒川橋梁架替事業については、令和 5 年 2 月に起工式が開催され工事も本格的に始まりました。橋梁の線路部については、葛飾区側の信号機器類が支障となる部分を除き、線路の大部分が踏切状に平坦化されたことにより、令和 3 年度に整備されたパラペットと連続した越水対策の作業効率が向上し、作業時間を短縮することができました。

事業完了の令和 19 年までの期間は暫定的な越水対策として、地元区において橋梁の鉄道線路を使用した訓練を繰り返し実施し、継続的に水防活動に取り組んでまいります。

国におかれましても、橋梁架替事業の完了を待つことなく、堤防の嵩上げに係る工事工程を工夫し、本来の目的である治水効果の発現を1日も早く実現するとともに、今後、水防活動の更なる効率化のための対応を進め、現場状況に最も精通する施工事業者にも、堤防嵩上げまでの間、各水防管理者が行う緊急水防対策に伴う水防資機材の保管・運搬等にご協力していただけるようご配慮願います。

江東五区といたしましては、何卒かかる事情をご賢察いただき、京成本線荒川橋梁架替事業のための予算と人員を確保し、事業を確実に進めていただくとともに、さらなる区との連携や地域の水防活動の取組みへの支援にも引き続きご協力いただきますよう強く要望いたします。

令和5年8月2日

国土交通大臣 齊藤鉄夫様

葛飾区長 青木克徳

墨田区長 山本 亨

江東区長 木村 弥生

足立区長 近藤 弥生

江戸川区長 齊藤 猛